

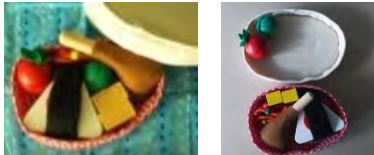




【教材・教具名】 コミュニケーションボード	【教科・領域】 日常生活の指導	【対象】 小学部	
【対象児童の実態】 <ul style="list-style-type: none"> ・発声（泣く）や指差し，右手で左手をトントンする動作などで要求を伝えようとする。 ・コミュニケーションの手段が限られており，気持ちを伝えることができないことが多い。 			
【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・写真や絵カードを活用して，教師の質問に答えたり，自分の意思を伝えたりすることができる。 <p style="text-align: right;">（生活科－交際－２段階）</p>			
【教材・教具の使い方】 [場面ごとのコミュニケーションボード]			
「いきます」段階１ 【排せつの場面】 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が排せつに誘う。 ・写真カードを貼り教師の代弁に合わせて絵カードを指差しする。 ・トイレに行き，戻ったら写真カードを終わりの箱に入れる。 		「いきます」段階２ 【帰りの着替え後の場面】 <ul style="list-style-type: none"> ・排せつと自由遊びの２つの活動を数字で順番を提示する。 ・１の写真カードを貼り，活動する。終わりの箱に入れる。次に２の写真カードを貼り，活動する。終わりの箱に入れる。 	
「ください」 【給食の場面】 <ul style="list-style-type: none"> ・おかずを切ってほしかったり，ごはんにかけてほしかったりしたときに，絵カードを教師に手渡しする。 		「たのしかったです」 【帰りの会の場面】 <ul style="list-style-type: none"> ・今日楽しかった事を絵カードから選びボードに貼り，教師に手渡す。教師の代弁に合わせて絵カードを指差しする。 	
【工夫点】 <ul style="list-style-type: none"> ・写真や絵カードは，本児が活動しているように顔写真を工夫したり，活動の内容が分かりやすいものにしたりする。 ・ボードには，各場面での「いきます」「ください」「たのしかったです」等の絵カードを貼り，何がしたいのか活動や質問の内容が分かるようにする。 ・場面によっては，教師にボードを手渡しできるようにする。 ・「帰りの着替え後」では，ボードに提示された数字と写真で活動の見通しをもつことができるようにする。 			
【効果(○)・改善点(●)】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真や絵カードを使って教師の質問に答えたり，自分の意思を伝えたりすることができた。 ○ 写真や絵カードの提示の仕方を工夫することで，活動に見通しがもてた。 ● 写真や絵カードの種類を増やしていき，自分から意思を伝える場面を増やしていく。 			

【教材・教具名】 ひらがな50音表	【教科・領域】 自立活動	【対象】 中学部
<p>【対象生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発語がなく、身振りや指差し、コミュニケーションカードや写真カードを使って意志表示している。 ・いろいろな物に興味関心があり、名前を読んでほしいと指差しで要求してくる。 		
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首に掛けたコミュニケーションカードを使って会話しているが、いろいろなことに興味・関心をもってきたためカードの枚数が増えてきた。ひらがな50音のマッチングができるので、ひらがな50音表を使ってコミュニケーションできるようにしたい。（コミュニケーション（4）） 		
<p>【教材・教具の使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が指差ししたひらがな50音表を教師が読み上げることで、会話ができるようにする。 <p>A4版にひらがな50音表を表示し、互いに見やすいよう文字サイズは66ポイントにした。給食メニューを指差しして読んでくださいという要求を毎朝してくる。給食メニューの隣にひらがな50音表を掲示し、「読んでください」は50音カードで「よ」「ん」「て」（濁点は省略）を順に指さすことにした。「よんで」を指差ししてから、生徒が次に指差しした「ミートボールカレーライス」等を教師が読むようにした。「カルタを貸してください」等も「かして」を指差しして「貸してほしい」という意思表示ができるようにした。生徒の実態から、2文字から3文字程度にした単語を使った会話に取り組んだ。給食メニューは「よ」「ん」「て」を指さし、教師が読み上げてから、生徒が指差ししたメニューを読むようにし、手順を踏まない場合は読まないようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その後、本児が指差しした単語例 ・「かして」（物を貸してほしいとき、「かして」＋欲しいものを指差し） ・「あけて」（大好きなビーズ遊びがしたくて、ふたを開けてほしい時） ・「トイレ」（今までは、下半身をトントンし身振りでトイレに行きたいと表現していた） ・「きて」（教師に給食メニューの所に来て、メニューを読んでほしいとき等） ・「オムレツ」（10月4日給食メニューのオムレツトマトソースがけを食べた日の帰りの会での感想発表前） <p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TTの教師、家庭にもひらがな50音表を渡し、活用してもらうようにした。 <p>【効果（○）・改善点（●）】</p> <p>○使用する語彙が増えており、より細かなコミュニケーションができた。 担当教師以外にもひらがな50音表を使ってコミュニケーションする場面が出てきた。</p> <p>●まだ単語の指し間違い等がある。</p>		



【教材・教具名】 手作りおべんとう	【教科・領域】 自立活動	【対象】 高等部
【対象生徒の実態】 <ul style="list-style-type: none"> ・要求を簡単な言葉や指差し，クレーン動作で伝えることができる。 ・動作を表す語の理解表出は限定されている。（閉めて欲しいときに，「開けて下さい」と要求） 		
【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当の模型を使って動作語の理解と表現の一致。 ・教師の働き掛けを受けながら，理解できる言葉や伝える言葉・手段を増やすことができる。 <p style="text-align: right;">（6コミュニケーションー（2））</p>		
【教材・教具の使い方】 <ul style="list-style-type: none"> ・『手作りおべんとう』・お弁当箱は布地で，おかずは木製と布地の おにぎりや卵焼き，ブロッコリー，トマト等。 ・お弁当をハンカチで包む。 ・「いただきます」のあいさつを復唱し，ハンカチの結び目を ほどいてから始める。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p>[段階1] 「開けて下さい」，「〇〇を取って下さい」，「閉めて下さい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示されたおかず名を復唱してから，お箸（手）で取り出す。 ・取り出したおかずを指示された順に復唱しながら，お弁当箱に 戻して蓋をする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>[段階2] 「切って下さい」，切り離したおかずをマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木製のおかずは付属の包丁で切り離せるようになっているので 「〇〇を取って下さい」，「切って下さい」と指示を出す。 ・切り離したおかずを指示された順にマッチングさせて， お弁当箱に戻す。 【工夫点】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が好む触り心地のよい木製を使用した。 ・動作語の理解と表現にプラスして，自分でできることを増やしたいと考え，「結び目をほどく」， 「食材を切る」といった作業を取り入れた。意欲的に取り組む姿勢がみられ，ハンカチの結 び目がほどけないときには，「お願いします」と教師に要求することもできた。 		
【効果（○）・改善点（●）】 ○自ら教材に手を伸ばし，お弁当箱を「開ける」から「閉める」まで，集中が途切れることなく最後 まで取り組んでいた。 ○「開ける」「閉める」に関しては，動作と言語の一致が見られるようになった。 ●木製の手触りを楽しみ過ぎることがある。不安定な時期は突然怒り出したり，思い通りにならな いと怒ったりするので，タイミングを見て簡潔な声掛けをしながら取り組ませる。		

【教材・教具名】 がんばりチェックボード	【教科・領域】 自立活動	【対象】 高等部
-------------------------	-----------------	-------------

【対象生徒の実態】

- ・ 対話でのコミュニケーションが可能。
- ・ 頼まれた仕事を正確に行う力を持っているが、頼まれたときに「はい」「わかりました」等の適切な返事をする事ができない。
- ・ きちんとできなかったことを指摘されることを極端に嫌う。

【ねらい】

- ・ 今日一日で自分がどのくらい頑張れたかを、量として視覚的にとらえることができる。

コミュニケーション(6)

【教材・教具の使い方】

○初期の頃のホワイトボード
項目が少なく気を付けやすい

○11/30のホワイトボード。
個人目標などの個別の項目もある

○チェックマーク。ニコニコは後から増やしたため、2種類存在する。

- ・ 「大きな声で挨拶して教室に入る」「素早く着替えて掃除に取り掛かる」など、その項目がきちんとしてできればニコニコマークがつく。
- ・ きちんとできないときには段階によってイエローマークや涙マーク、複数回になるとイカイカマークが付く。付いた場合は、その理由を伝え、自覚をもたせる。

【工夫点】

- ・ 自分が今日一日でどのくらい頑張ったかを目で見えて量的に理解できる。
- ・ できると期待している項目を書くことを伝え、励ますことができる。
- ・ 初めは項目を少なめにして、ボードのルールを理解を促してから項目を増やし、生活全般についてチェックできるようにする。

【効果(○)・改善点(●)】

○毎日使用することで項目やマークの仕組みが分かり、マークが気になるので自分の行動に気を付けられるようになった。

●項目が増えると気を付けきれない様子も見られた。→項目を確認し、学校生活の流れの中で毎日やっていることであることに気付かせると、納得していた。